H24　11　21
No.11

研究発表会の成果を学力の向上につなぐ

ハイライト：

- **確かな成果を示す学校として**
- **高まった学力を評価し、今後の指導につなぐ**
- **解決の方策を具体化する**
- **聴き合い・語り合いをつなぐ**
- **成果と課題をつなぐことから、来年度の研究へつなぐ**

確かな成果を示す学校として

11月8日の研究発表会では、これまでの先生方の授業づくりの成果を示すことができたでしょうか？

研究発表会における「子どもたちが学習に取り組む姿」、「先生たちの授業づくりへの姿勢」について、講師の先生方、参会の先生方から高く評価していただきました。久原小学校の全学級において、子どもの目が輝く学習を創造していくことができていたことが評価されたのです。これは、久原小学校「夢プラン」の重点目標である「確かな成果を示す学校」、「協働体制の確立」が評価されたことになります。

公開授業後の板書を見ると、どの学級も指導内容が明確ですばらしいものでした。板書を見るだけで、当日の授業がどのように展開されていったのか、はっきりと想像することができました。子どもたちと先生方が目を輝かせながら、質の高い授業を創り出していけたのだと思います。

外部から高い評価を受けた授業でしたが、授業後の先生方からは、「もっと○○すればよかった。」「△△が思い通りにいかなかった。」などの課題が挙げられていました。このように授業後に課題を意識することができるのは、先生方の授業づくりの質が高まってきているからです。自分なりのこだわりをもって授業をつくってきたからこそ、自分の指導に関する課題を自分自身で分析することができているのです。

子どもたちの学習は、これまで自分ができるようになったこと（成果）をもとに、新しいこと（課題）に挑戦していく活動の繰り返しです。指導者である私達も、研究発表会を通して身に付けた指導力（成果）をもとに、新しいこと（課題）に挑戦し、さらによい授業を創り出していくことを繰り返していきましょう。

高まった学力を評価し、今後の指導につなぐ

研究発表会に向けて積み重ねてきた「子どもの目が輝く学習」は、学力の向上に反映されているでしょうか？

研究発表会を終え、学年の指導を折り返したこの時期に大切なことは、学年の指導内容についての形成的評価です。今、子どもたちは、「何ができるようになっているのか。」「何がまだ十分に身についていないのか。」、しっかりと分析、評価していかなければなりません。これは、「学級全体としての評価」と「個別の評価」の２つの面から行います。

評価の観点は。当然のことですが、学習指導要領に示されているもので、具体的には、単元ごとに設定している「評価規準」をもとに行います。評価規準の大切さについては、中間報告会や年度末報告会で、繰り返し報告・協議されてきたものです。「おおむね満足できる」状況にある指導内容は何なのか、「努力を要する」状況にあるものは何なのか、評価していくことで、指導の課題を明らかにし、「努力を要する」状況に対して、指導の改善を図っていきましょう。

課題解決の方策を具体化する。

研究発表会で発信した久原小学校のよさの１つは、チーム力です。よりよい授業を創り出していくことができたのは、先生方一人一人の真摯な努力の積み重ねの成果です。しかし、これはチームとしてお互いに支え合ってきたからこそできたものです。

ここで、研究発表会に向けて培ってきた久原小学校のチーム力を、子どもたちの学力の向上にむけて、さらに生かしていきましょう。

具体的には、①学級・学年の子どもたちの成果と課題を明らかにすること、②成果の生かし方、課題解決の方策について協議し、具体化すること、③実践に向けての支援を多面的に行うことと となります。

このことは、学年の学力向上プランと重なるもので、プランは、常に検証し、よりよいものに修正していかなければなりません。「もっと○○ができる子どもを育てていくために」「△△の内容を確実に理解させていくために」に近接学年チームでの協議を通して、子どもたちの学力を向上していくための新たな指導をつくり出していきましょう。

聴き合い・語り合いをつなぐ

研究発表会の成果をつなぐ授業を、常に意識していきましょう。

研究発表会の要録には、「聴き合い・語り合いのポイント」として、次の５点を挙げていました。

①指導内容に応じて「聴き合い・語り合い」をつくる
②聴き合う子どもたちを育てる
③語り合う子どもたちを育てる
④発問・形態を工夫し、「聴き合い・語り合い」をつくる
⑤「聴き合い・語り合い」ができる支持的風土をつくる。

これは、研究発表会に向け、それぞれの学年、学級で取り組まれていたことを整理したものです。久原小学校の子どもたちは、学年の発達段階に応じた「聴き合い・語り合い」をつくることができるようになってきました。

研究発表会を終えて、私達が意識していきたいことは、これまでの「聴き合い・語り合い」をつないでいくことです。

語り合いの到達目標は、学年の発達段階に応じて段階的に設定しています。次学年の目標を見据えて、当該学年がめざす姿まで、すべての子どもたちを到達させておかなければならないのです。そのために、これまでの実践をしっかりと継続していきましょう。

成果と課題をつなぐことから、来年度の研究へつなぐ

平成24年度も、残り４か月余りとなりました。「子どもの目が輝く学習の創造」という研究テーマのもと推進してきた主題研究は、研究発表会を節目に、子どもの姿として具現化していくことができました。

しかし、学年の半ばのこの時期に、学年のすべての指導内容を定着させたわけではありません。また、これまでの指導内容を、すべての子どもに理解させてわけでもありません。

今大切なことは、研究発表会の成果と課題をしっかりとつないでいくことです。これまで培った指導のよさは、これからの学習単元において、有効な場面で効果的に行っていきましょう。また、明らかになった指導の課題については、さらなる工夫、改善をすすめていきましょう。

これから、すべての子どもたちに、すべての指導内容を身に付けさせていくために行っていく指導の工夫、改善が来年度の研究へつながっていきます。